

1月臨時会

予算等審査特別委員会

**予** 算等審査特別委員会（議長を除く21人の議員で構成、委員長は菊池充議員、副委員長は菊池巳喜男議員）は、条例2議案について付託を受け、審議を行いました。

今委員会では、特に地上デジタル難視聴解消対策に係る加入金の減額についてや、市道の除排雪と凍結対策、遠野物語100周年記念将棋名人戦歓迎事業費についての質疑が交わされました。その結果、2議案とも原案のとおり可決されました。

**市内の地デジ難視聴対策をどう進めるのか**

**問** 来年7月24日で地上アナログ放送が終了する。その対策として、国とNHKではケーブルテレビ加入への支援制度を創設した。それを受けて遠野テレビとしてはどのような難視聴対策、加入対策を講じるのか。

**答** 市内のデジタル中継局は物見山のみであり、このままだと遠野テレビに加入していない多くの世帯が難視聴になる可能性がある。そこで、この支援制度を活用し、低額な料金プランにより遠野テレビ加入率を80%以上に引き上げたい。そのため、遠野テレビ加入推進月間を今年4月1日から9月30日までの6か月間と定め、かつ、難視であるなしを問わず、その期間に加入する世帯全て、加入金を5千円とする。デジタル中継局が整備されない約600世帯、デジタル難視世帯約300世帯、市内未加入世帯約300世帯への加入推進を強力に図ろうとするものである。また、サービス内容についても、標準タイプ月額3,150円以外に、格安の月額2,100円タイプも用意する。更に、インターネット接続について、これ

までの1メガバイト、2メガバイト、10メガバイトコースに30メガバイトコースを追加し、高速通信時代に対応したサービスを提供していく。

※メガバイトとはコンピュータで扱う情報量の単位。メガバイトは通常「MB」と記述される。

**議員談話室**

“春は名のみの風の寒さや”の如く、今年は春が例

年より遅く、まだまだ雪の気配が感じられる昨今だが、冷え切った景気的好転が待ち望まれるのは、国民すべての願いだろう。昨年8月の総選挙で、60余年続いた自民党政権が、民主党を中心とした連立政権に代わり、半年が経過しようとしているが、この間の政治体制の様変わりには明治維新に匹敵するかのよう激変であり、従来の考え方をどのように転換すべきかが、地方議会に身を置く我々議員としても、考えなければならないと思う。新しく発想を転換させ、国民主権の立場と、公共の福利を追求する原則を地方議会の場でも発揮しなければと考える。山積する市政課題を、市民一人一人と共有する姿勢を持ちながら議員活動に励まねばと考える。

「新しき明日の来たるを信じつつ」

(佐々木讓議員)



4月からデジタル放送を開始する遠野テレビ